

幼児童話審査員會の夜

フレーベル館創業三拾周年記念保育研究資金による幼児童話の募集の結果は、本誌先月號に發表され、今後も引きつゞきその作品發表がなされる事になつて居ります。實は、この記事も、順序としては九月號の發表と同時に致されるべきでございましたが、この仕事の内幕を知つて居らるゝ方はごなたも御諒解下さる事と思ひますが、九月號に發表される爲には八月の末までに原稿が整つて居らねばならず、その爲には審査委員會は、おそくも八月の末に催されて居らなければなりません。今年の八月は御承知の通りの炎暑ではありましたが、又審査員の諸先生方は皆何れも御多忙で、東京にお出でにならない方もお在りでしたし、そんな事情で審査員の諸先生方に親しく、御審査の御批評を伺ふ會は、おくれればせながら、此の十月の五日に開かれたわけでした。

記者もその末席に侍らせていただき、諸先生方の御熱心

なお言葉をお伺ふ事が出来ました。一般讀者にも非常に興味あり教へられる事の多いものでございますが、この度の計畫に御賛同、應募せられた方には、又ぎんなにか強く深くひゞく事です。その會のあらましをスケッチして御知らせ致すここに致しました。文責は勿論記者にございます。

倉橋先生 一等當選の「十五夜のお山」も、二等の「時計の子供」も云ふのは審査員諸先生によつて第一位に置かれた方があり、又第二位に置かれた方がありまして、全員一致でもありませんでしたが、併しみんなのを綜合して見て一等になり、二等になりましたので、集つたものゝ中では、作品だつたのだと思ひます。それに就いて小川先生如何でござんせう。一つ御批評を御伺ひ致し度いのですが。

小川先生

「十五夜のお山」ミ云ふのはいゝ作品でした。月の無い晩の光景なきがよく書けてゐましたし、又人情味もあり、やさしみもありましたし。併しこれについて難を言へば

1、ありきたりの比喩感情で一貫して居る。

2、明るい、新しいお伽噺を自分で作らうとする意氣に缺けて居る。

ミ云ふ、二つの事が言へる様に思ひました。狸や兎の概念はもう古いですな！ それからスキッチョが怪我をしたりするところは暗くて非科學的なところもあつて、一寸いやですね。

童話はもつミ新しい進歩的なものが出て來なければいけないと思ふんです。

新しい童話は、ミつつきが悪いとか、親しみが無いとか云ふ事も言はれるが、子供が自分で讀む爲の童話ならさういふ事もありませう。併し、小さい子供に聞かせる童話ですから内容はさう問題ではなく、聞く子供ミ語る人との關係だと思ひますよ。ですから新しく一寸ミつつきが悪いと思ふ様なものでも、日頃親しんでゐる保姆

さんやお母さん等から聞くいゝものです。

もつミ新しいお伽噺の世界を開拓するものが出て欲しいと思ひました。

そこへいくミ「時計の子供」の方は、新鮮味があつていゝと思ひました。お母さんや保姆さん等から聞くミ子供の頭にぴつたりミ來ると思ひます。

倉橋先生

成る程さうですね。私なんかはそこまでこまかく考へず、お月様が再び出て來たあたりの野原の明るい感じを、たゞ印象的に明るく感じて、面白い作品だと思つたんでした。

岸邊先生

私はあの「十五夜のお山」を讀んだ時、あの天の岩戸の前でお神樂をやつて、天照大神に再びこの世にお出になつていたゞいてこの世を明るくしていたゞいたあのお話を直ぐ思ひ出し、上手に取り扱つてあると思ひましたよ。そして、この人はなか／＼おもしろい頭の人だと思ひました。文章もよく書けてゐましたし、構造の方も初めミ、

説明ミ山ミ結びミ云ふ様に四段から出来て居り、それぞ
れの長さも程よく、そしてよく整つて書いてゐるミ思ひ
ました。

「時計の子供」の方は、面白い考へ方ですが、夢で結ん
であるのが一寸氣になりますね。私なんか、自分がおは
なしを作る時に、いよく困つてしまふミ遂、夢だつた
ミして逃げ易いので、その手を使ふのが嫌ひなのです。
結びはなるべく夢にしたいミ思ひますね。

「積木の御殿」これも夢になつてゐる。それに此の作に
は言葉が少々ぞんざいなミころがあつて困ります。品の
わるい言葉はいけません。

川先生

「めだか」は朗らかな教訓的な作品ですね

島先生

「積木の御殿」ミ云ふのは、極くいゝミ思ひますよ。宗
教的な價値のある美しい作品だミ思ひましたね。あゝい
ふ話を聞かされてゐるミ、識らずゝいゝ感情が養はれ
るミ思ひます。

岸邊先生

さうか「鉛の兵隊」に似てゐる感じがしました。おしま
ひにおもちやミお菓子を買つて来て下さつた、之れも少
少話の逃げですね。

田島先生

全體ミして、さうも、もつミ創作的なものが出て來そ
うなものだミ感じましたがね。それから東京の保姆諸君
が少ししか出して居ない。一寸がつかりました。

小川先生

さうですね、全體を通じてもう少し高度のものが出て
いゝミ思ひますね。殊に、さうも子供の世界には入り切
つて居ない。又もつミ自由奔放に書いて欲しい。感激の
ある高い感じのあるものが欲しい。

倉橋先生

さうですね、みんな、作られてるミ云ふ感じが勝ちま
すね、もう少し、吃驚^{びっく}する程、フーミするものがほしか
つた。作者のほんたうの溢れでないやうな氣がする。

岸邊先生

しかし又ね。皆さんはいろいろ慾張られるけれど、なか／＼さうは行かない。今回のこれで皆相當よく出来てゐますよ。

田島先生

一人で三篇も出して居られるのを見て、その熱心に感心しましたね。

岸邊先生

二百近くも出た事が何より嬉しい。出来のよしあしは今回はこれ位で上出来と言はなければならぬでせう。

これが二十か三十しか集まらなかつたら心細いし、質ももつゝ悪かつたかも知れない。

文展の第一回の作品も、これ位ではなかつたのでせうか。高い所を示していたゞゞ共に、今度はよく、こゝまで来たゞ賞めて上げたい。

倉橋先生

審査員の皆さんもあの炎暑の折柄にもかゝはらずよく見て下さつた。今日は御出張で御缺席ですが、あの多忙な久留島さんの如き、「これは星でなく月にしたら」等々細

かい事まで書き添へて下さつたりした位です。

小川先生

實際選者にして迷つてしまふ事があつて、一つのもを三度も四度も讀む事がある。

倉橋先生

審査員、實行委員の方々の御努力もさる事ながら、又この主旨に賛同して應募して下さつた多數の方、その中には遺憾ながら選には入らなかつた方々をも含めて充分感謝しなげりやなりませんよ。

かうしたお話の後でフレーベル館高市次郎氏の心からの感謝、感激の挨拶があつて夜おそくまで次回の募集の協議がつゞけられたのでした。

手技募集に就いて

フレーベル館創業三十週年記念保育研究資金による第二回の懸賞募集——手技募集——をいたして居ります。前回にもまして多數の皆様が應募なさいます様、おすめいたします。委しい募集規定は本誌廣告に明記してございます。

記者